

## 【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 24-3  
補助事業名 平成24年度 ICT社会における安全・安心確保に関する 補助事業  
補助事業者名 一般財団法人コンピュータ教育推進センター

### 1 補助事業の概要

#### (1) 事業の目的

##### ①「ネット社会の歩き方」講師育成セミナーの実施

文部科学省の『教育の情報化に関する手引』で、「第5章 学校における情報モラル教育と家庭・地域との連携」としてわざわざ情報教育とは別に章を起こしている。本事業では平成23年度JKA事業により開発した情報モラルWebコンテンツ「ネット社会の歩き方」を活用して、各教育委員会指導主事や学校の先生方が「情報モラル教育研修会（校内研修会・地域研修会）」の講師となることを可能とする「ネット社会の歩き方」講師育成セミナーを実施し、指導者の裾野を広げることを目的としている。



奈良市教育センターでの研修風景

##### ②高等学校インターネットリテラシー教材開発

インターネットの活用は学校の授業の中でその能力に合った指導を実施しているが、中学生・高校生へのスマートフォンの急速な普及に伴い、無料通話ソフトや各種アプリの利用、ID連動などによる新たな危険が現出してきている。それへの対応が喫緊の課題となつてが、教材がどこにも用意されていないため、教員にとつても解決策、相談方法などが確立していないことが現状である。高校生インターネットリテラシー教材開発では開発にあたりリスクにはどのような現象が起こるのか具体的な例を示し、子どもたちが危険に出会った場合にはネット社会に正しく対応することができるようになることを目的としている。



## (2) 実施内容

### ①「ネット社会の歩き方」講師育成セミナーの実施

[http://www.cec.or.jp/cecre/jka/h24ns\\_index.html](http://www.cec.or.jp/cecre/jka/h24ns_index.html)

日本全国から応募のあった13地域15ヶ所560名の参加を得た。本事業では情報モラルの具体的な指導の方法、当財団で公開しているアニメーションコンテンツ「ネット社会の歩き方」の活用やその他の教材の紹介を行った。セミナーの最後には研修成果を踏まえて、情報モラル研修を計画するワークショップを行うことを基本構成として実施した。

### ②高等学校インターネットリテラシー教材開発

[http://www.cec.or.jp/cecre/jka/h24lit\\_index.html](http://www.cec.or.jp/cecre/jka/h24lit_index.html)

当財団がJKA事業により開発した『親子のためのネット社会の歩き方』テキストが大変好評を博しているが、これは小学生・中学生を中心とした教材であり、高校生を対象とした教材がなかった。また、近年のスマートフォンの急速な普及などにより、中学生・高校生の間ではインターネットに関連した新たな問題が発生しており、それらに対応可能な教材の開発が喫緊の課題となっていた。



そこで、講師育成セミナーの委員会を母体に、今年度「中・高校生向冊子作成検討委員会」を発足させ、スマートフォンによる意図せぬ情報流出やウイルス感染など、従来の携帯電話とは異なる問題にも対応できる中学生・高校生向けテキストの開発を行った。

## 2 予想される事業実施効果

### ①「ネット社会の歩き方」講師育成セミナーの実施

受講者の7割は情報モラルのセミナーに参加することが初めてと回答している、アンケート調査においても、本セミナーで得られた教材や指導方法などの情報が受講者にとって大変有効であったとの回答が得られた。

「本セミナーは、今後の情報モラル研修会実施上の参考になるか」という4点満点評価の問に98%以上の受講者が参考になると評価をし、「本セミナーで利用した教材は、今後の情報モラル研修会実施の際に活用できるか」という問に対しては、96%以上の受講者が実施に活用出来ると回答。特に印象に残ったのは「ワークショップ」であったという回答に見られように、詳細な資料（特にパワーポイントで作成した教材は、全くの初心者でも専門家と同じように話ができるよう「読



み上げ原稿付きパワーポイント教材」としてある。等)、指導方法などを身につけ、指導者として地域・保護者や学校での指導と情報モラル指導の即戦力とすることができる。

## ② 高等学校インターネットリテラシー教材開発

本テキストは授業で活用するだけでなく、中学生・高校生が家庭等でも楽しみながら自主的に学ぶことができるような構成を考慮し、以下のような特徴ある内容とした。

### <特徴的な内容>

- ・ SNSや無料通話アプリなどの「ID連動」による危険性と緊急対応策
- ・ 電話帳や各種情報の不正取得を目的とした危険なアプリの見分け方と対処方法
- ・ ネットゲームの落とし穴
- ・ ネットいじめなどの被害を受けた時の対処方法
- ・ 望ましいネット社会の構築と、対面の人間関係・ネット上の人間関係双方の大切さ
- ・ 各種トラブル対応と相談先

コンテンツ使用のため、通信会社、ゲーム開発会社などに紹介を行った結果、本教材に大変興味を持ち、高等学校の生徒が保護者とスマホを購入する際には紹介していただけることとなった。学校だけではなく、通信会社、ゲーム開発会社と連携して児童生徒の安全・安心教育が加速することになると考えている。

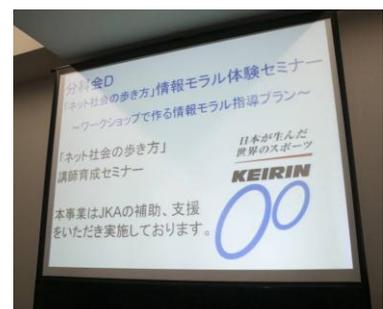


当財団の成果発表会において「ネット社会の歩き方」講師育成セミナー事業はセミナー、参加者を募集、応募してきた60名にはiPadを用意し実際の講師育成セミナーを体験していただくとともに自由参加者がその様子を見学できる



方式にしたため立ち見となるなど関心の高さが伺えた。また、アンケートの評価では「生徒につかわせたいと思う。」「CECのサイトをフル活用したいと思います。」「今まで以上にコンテンツを利用します。」との高評価を得られた。

高等学校インターネットリテラシー教材開発事業の発表においても、「最新の生徒の情報が聞けて良かった」「インターネットの危険な部分を指導しないと大



変な事になると思った」「生徒の方がスマホに慣れているため、これから勉強します」とのご意見があり、インターネットリテラシーの重要性、危険管理のノウハウを学習していただき高評価であった。



### 3 本事業により作成した印刷物等

- 「ネット社会の歩き方」講師育成セミナー標準教材

[http://www.cec.or.jp/net-walk/otona\\_all.html](http://www.cec.or.jp/net-walk/otona_all.html)

- 「ネット社会の歩き方」講師育成セミナー実施報告書

[http://www.cec.or.jp/jka/H24/H24\\_houkoku.pdf](http://www.cec.or.jp/jka/H24/H24_houkoku.pdf)

- 中学生・高校生のためのネット社会の歩き方

<http://www.cec.or.jp/jka/H24/juniornet-walk.pdf>

### 4 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 一般財団法人コンピュータ教育推進センター  
          (株)コンピュータキョウイクスイシンセンター

住所： 〒108-0072  
          東京都港区白金1丁目27番6号  
          白金高輪ステーションビル3階

代表者： 役職名 理事長 赤堀 侃司（アカホリ カンジ）

担当部署： ネットワーク利用促進部（ネットワークリョウソクシンブ）

担当者名： 役職名 総務部 総務課長 赤松 伊佐代（アカマツ イサヨ）

電話番号： 03-5423-5911

F A X : 03-5423-5916

E-mail : cec-info@cec.or.jp

URL : <http://www.cec.or.jp/CEC/>